

萬國新話
其二

ル 7

3100

3

早稲田大學
圖書館

寄託者 內田文庫

寄託書 第四二號

第 4 號

第 3 冊



ル 呂 2
2855
卷 5-3

門 7
3100
卷 3

萬國新話卷之二

亞細亞之部

東都

森寫中良

編輯

大正十年九月廿日寄
内田糸子氏贈

○人膽酒

占城

東西洋考云。むろく占城の國王

古の越裳乃地多。秦の時林邑といひ。漢の時

象林といひ。又區連叔といひ。昨ありて人の膽或採酒入る是或飲

まは是を酒よ浴通身が膽なりといふと名中良

案云々。此後ハ真臘國よりわくるなり。真臘風

土記云。毎年八月の三日。占城王人の膽千石取索



去こ母依りて去獵王。夜ごとくに人と城外小出し。
往來の人河れれを縄なをて作らしる。鬼おにのめらしよの成じ。
此こはおぶらせく川き注め。小かき刀杖の門て右りの
昭あ下と裂さて持取り。数たの足と俟まて。占城王い
饋かりあり。

○ 曾 姻 同上

此國は嫁娶よめとりはかあらむべ八月とりらむ。女の方より
男を求むじ同姓を嫁らしあり。東西洋考 北史よ曰く。嫁ら
者を一て金銀と釵と酒魚とを齎もつて女乃亦あり
いし志む。及まおつて吉日に成定む。其日はあらむ

男の家に親を族と令して宴を設け。女の家にてハ
一人は波を州に成法。波州門の波姓の住居をいふ也。一。紅毛語活乃活合をさる一。 女を
引て男の家に至し志むれる。婿と盟を手を出送ひ。洗は
て是は校らるとあり。

○ 葬 禮 同上

隨書よ曰く。王死まれむ七日百宦ハ三日無人ハ一日小
一て葬る。函の内に屍を入し導送人ハ報を打ち葬す
踊り水を送り。薪を積みて屍を焚き其骨王ハ
金翳百友ハ桐棺無人ハ瓦翳ヲ収めて海に沈む。
とあり。葬送の時に男女皆髪を截て隨ひ來り。

あ道めて哀をおく。帰る所ハ更り哭せむ。
七日あふふ火焚花を彼志て復たむ。其かか
ひる。七十四十九日あて罷とあん。

○尸頭虫 同上

星槎勝覧云云占城の尸頭虫ハ婦人あり腫なり。
深夜よつれども其既飛去りて人の穢物を食ひ。
死にけり復體よ合むと。其既を封じ固あ
るしハ體成別處に移せむ昂死也。病者糞より
條む所よきよ遭む。妖氣後不入てかあむ死を
云。外國竹枝詞よ。

那堪黑夜遇尸虫

と詠トく。注よ小兒の糞夫沈合ふとつア。此を
以下此後統ハ此國の事ハあふれども因に記して。
兒をの耳を収む。太平廣記云山陰南の溪洞
乃中小飛頭の者あり。其飛頭擦子此名あり。既飛
んとする一日前より。頭よを頂へくけて。紅の線乃ぬく
ある筋おれむ。妻子知て是試看守も取よ及で
状病がごとく。既忽身を斃して去。其かか岸泥より
申いて。懈蚓の類を食ひ。曉よ將として飛還れむ。
ぬく。其後實云。又南方異物志

ふ云嶺南の溪洞は飛頭垂あり。其の項小赤痕有り。其に至る耳以て翼と云ふ。飛去て虫を食ふ。三才圖會云大閩婆國此中。中良業ふ閩婆國ハ此哇の古名なり。

飛者あり。其人睡る。其頭能飛ぶ。瀛厓勝覽云。屍致魚と號る者ハ乃婦人あり。其目腫る。夜渡る所ハ川。頃飛ぐ人亦入り。小兒乃穢を食ふ。氣小兒の腹を侵る。必死す。中畧夫の婦の

飛るふも。以て匿る者ハ眾家屬不及とあり。是ハ真臘の飛頭の事なり。風土記ハ其似か。羸虫集云。老撾國此人。占城の近國なり。南西北は樣も。

鼻水醬と飲。以て飛ぶ魚と食ふ云。吾邦をてハ

俗は轆轤首と云ふ。西國少くハ拔首と云ふ。中台に安る。小琅邪代醉に。元の詩人陳孚る者。出く安南より使る時。紀事の待あり。

鼻飲如瓠。頭飛似轆轤。鼻飲の如く瓠の如く。頭飛の如く轆轤の如く。

け。憐憐首ハ此待よりとつらる也。予往年相如鎌倉に遊ぶ。時長谷の辺に所家を轆轤首あり。と婦人云。頭小赤き痣あり。其を

よく。何者か流言と云ふ。一。るある。一。見。他人の知。ふ。い。う。さ。ぬ。事。味。る。き。新。附。の。女。を。あ。り。ま。し。況。あ。れ。と。此。は。思。也。

の知。ふ。い。う。さ。ぬ。事。味。る。き。新。附。の。女。を。あ。り。ま。し。況。あ。れ。と。此。は。思。也。

○酒と及同上

東西洋考少云占城國の人酒を甕かみに醸もし熟じやくし候まて宿主まかの甕かみを繞まりて三日さんじつをくし此竹筒しやくとうを挿入さしく輪りん次じに吸す盡じんし末すゑは酒さけの味あじを止とめし外國竹枝がいこくしやくじ詞ことばを

三尺竹竿輪灌酒さんしゃくしやくかんくわんしゆ

かく酒さけトとるハ是こゝあり

○金塔の中は妖精きんとうのちゆうはようせい

真臘しんらく

真臘國しんらくこくハ占臘せんらくと稱なづけ亦また東補塞とうぼくさいともいふ占城せんじやうは

西にしりて應帝亞おうえんていあは屬國じやくこくあり至大豪富國しだいごうふこくあり

於唐山おんたうざんの諺ことわざハ富貴ふきをとりて竹枝しやくじ詞ことばに

富貴無及真臘強ふきむあじしんらくかう

と云いふ詠えいトとり城しろの周圍まわり二十里にじゅうりぐらうり宮室みやうしつの災わざハ云いふ詠えいを絶たつとあり真臘風土記しんらくふうどき云いふ宮中みやうちゆうに金塔きんとうあり國王こくおうはたく甚上しんじやう小臥せうふしを塔とうの中ちゆうに九頭きゅうとう蛇へび精せいあり女身にょみあり是土地こゝのちのちゆう主しゆうなりすから毎まい夜よ主しゆうと交媾かうかうし其妻そのさいといいふも敢あて入事いりじあり二に轂こくの後のち宮みやうより帰かへりて妻妾さいせつと曰いふトとく睡ねるまの妖あや精せいハたく國王こくおうの死期しきを記しるすまり

蕃王一夜付されども。たち而も災禍を獲とせ。

○直曠此服傍 同上

風土記も云。國王より以下。男女のつれも推髻おしげを
祖いへ楊やう布ふを以て腰こし圍こむ。巾きん入いる外ほかハ襖うす卷まき
の上うへハ一條いっしやう乃すなは大布おほふ地ぢ川がわに纏まとふ。此布このふハ等階とうがいあり
といふ。百姓ひやくしやうハ女子むすめぐらう。此布このふを月つきあたるを由
る也。玉王たまのうの月つき由よしるものハ直金ちよくん三四兩さんしやうりやうなる物ものら也。
極たぎめく華はな華はな精せい美みあるを多く暹羅せんら占城せんじやうを織オリる
代用たいていよう也。西洋せいやうより織オリるを上好じやうこうとふとなく。國
王こくわうハ巾きんより依よりて金冠きんくわんと戴たいくるものあり。冠くわんと加かへる

巾きんハ茉莉せきりの類るい乃すなは花はなと採とり。線せんを以てはるはりて髻げきり
匣やう一頂いっていの上うへハ大なる珍珠しんじゆ三斤さんしんぐらう。織オリ戴たいく足あしハ
貴人きいじんハ男女なんにょと
貴人きいじんハ男女なんにょと
と臂うでハ小金こがね鐲わくとわび。指ゆびハ指展ゆびのび織オリるものあり。全ぜん身しんハ
擅せん麋み射しゃと塗ぬる手て心こころと御底ごていと紅べになる葉はめて赤あかく染ぞめ
られし。百姓ひやくしやうハ女子むすめぐらうを染ぞめし。事こと代た許ゆるす。

○寺小竈無一 同上

同書どうしよハ云いふ。俗しやくを芋姑いもぢとて不剃ふてい髪かみして。夏なつなる衣い織オリ
偏祖へんそ右肩みぎかたハ着きる。腰こしハ同色どうしきなる裙くちを纏まとふ。足あしハ
白しろく洗せん足あしるものあり。扱あ寺てらハ庵あん蓋がいありて堂だう此中こゝちゆうハ紅べに

たゞに此等志む事。此後と異なり。是ハ地方小
 ちとそ差別（俗）あるのみ。又葉（葉）ある。其の馬防ハ。其振を乃
 るハ。其毛人のト人トあり。且ハ。其振ハ。海有る。此
 ハ。其者ハ。其者ハ。其者ハ。

○真臘人の澡洗 同上

同書云云。土地もかぶる。其熱するが故。土人日夜
 洗浴（俗）あり。浴室（俗）盂桶の形有る。家々
 池を掘り。男女（俗）いづれも裸形（俗）めて池中（俗）入婦人ハ
 尤もめて牡門（俗）と遮（俗）のこされども。父母（俗）あり。其
 高年人池（俗）は在る。子女早（俗）幼ハ斟酌（俗）して敢て入
 る。子弟（俗）の池（俗）は在る。高年（俗）の人（俗）も亦志（俗）く。或昨（俗）ハ

城中（俗）の婦女（俗）三々五々て城外（俗）の河邊（俗）に至り。纏（俗）小纏（俗）不
 布（俗）を脱去（俗）水中（俗）入（俗）て澡洗（俗）小踵（俗）り。頂（俗）より下（俗）まで
 いづれも（俗）揺（俗）る。其（俗）動（俗）り。其（俗）人（俗）数（俗）千（俗）或（俗）は
 数（俗）百（俗）。其内（俗）ハ。府第（俗）の婦女（俗）も交（俗）り。其（俗）人（俗）
 此地（俗）ハ。旅（俗）者（俗）あり。其（俗）れを以（俗）て遊觀（俗）の（俗）出（俗）とす。大
 抵（俗）城外（俗）の大（俗）河（俗）日（俗）と（俗）して。其（俗）事（俗）わ（俗）る。其（俗）か
 と。其（俗）地（俗）ハ。其（俗）者（俗）ハ。温（俗）不（俗）して。湯（俗）の（俗）ぬ（俗）。其（俗）唯（俗）五（俗）更（俗）の（俗）以（俗）
 微（俗）ち（俗）く（俗）冷（俗）め（俗）れ（俗）ども。日（俗）出（俗）よ（俗）る（俗）れ（俗）バ。又（俗）温（俗）よ（俗）る（俗）と（俗）も（俗）
 土人（俗）交（俗）接（俗）の（俗）法（俗）也（俗）。其（俗）入（俗）る（俗）澡洗（俗）。其（俗）人（俗）亦（俗）池（俗）入（俗）る（俗）沐浴（俗）
 也（俗）。其（俗）人（俗）多（俗）く。其（俗）人（俗）多（俗）く。其（俗）人（俗）多（俗）く。

○送葬 同上

同書に云人死られぬ。差席の紙を以て包み。布
 とりつて是を蓋ふ。板釘葬は此の旗幟とて
 報樂志て送る。送るに米の炒るを抛撒と
 する。又より城外の人烟をゆるる所より死者を
 引出して其を棄れども。犬等のたぐひ群を来
 て。忽ち食ひおとす。子羊を死して怪てくら
 父兄生前は福ありけり。此善報と文と。し
 念ふをれを愁てくら。前世の罪滅せりけり。か
 此惡報と文と。りくら。忌後此制あるのみ。
 男子ハカ一らの毛髪。女子ハ顛門の髪。ハカ

賤の大サはぬ。是と以て孝と云ふのみ。

○陣じん 同上

同書に云土人女子を産む時ハ父母あれを祝して
 いと。新くハ汝将来千百人の丈夫を見ゆと
 と要せよといふあり。此地の婦人至る多。富室の女ハ
 七才より九歳と限。貧家の女ハ十一歳までと限
 して。傍に清道士を乞て童身と云ふ。む
 毎年四月に内一日を擇みて。陣じんの日と定む。陣じん
 と行くと欲するあり。友目一紙を出ぬ。其他の

上巨燭（ひかり）と刻畫（きりかき）をりて成あふ。礼をりて板け燭を
 點（とも）し。火刻画（かきかき）の如く燃るるを陣（じん）の時刻（とき）とあり
 あり。彼定日（じやうじつ）より一二月も前より。女子（じよし）は父母（ふぼ）の處
 の寺觀（てらみ）をりてあそびて。陳結（ちんけつ）の人を擇（えら）ぶ有徳（いうとく）の侍
 道人（だうじん）。大抵（たいてい）官府（くわんぷ）家室（けしつ）は先納（せんなう）ありて。かろく貧者
 かごのふ不及（ふじやく）とあり。粧（まげ）の官（くわん）に酒米（しゆまい）布帛（ふびやく）擯（ひん）擯（ひん）
 銀器（ぎんぎ）これ。拱（こう）掃（そう）子（し）拾（しつ）の所（しよ）成（じやう）とて。藏（ざう）蓄（じやく）といふ。又賓門（ひんもん）藥（やく）錢（せん）といふ。まじ儲（ぞく）兵
 あり。運（うん）貯（ちよ）も合（あ）ひあり。やうそま者（しやうそましや）の味（あじ）は。あ先（あき）これをもり。かま細目（こさいめ）。有（あ）草
 木（き）状（じやう）小裁（せうさい）より。五穀（ごこく）組（ぐみ）小徳（せうとく）儀（ぎ）奉（ほう）。理（り）より。ハ能（のう）碎（さい）を碎（さい）より。ハ能（のう）碎（さい）を。儀（ぎ）より。ハ能（のう）
 砲（ぱう）とめ。飽（ほう）より。ハ能（のう）儀（ぎ）とむ。又東西（とうせい）洋考（やうかう）よ。云（い）。古（こ）城（じやう）。唐山（たうしやん）の銀（ぎん）目（め）は積（た）りて。三百
 玉（ぎよく）出（し）味（あじ）ハ。拱（こう）掃（そう）盤（ばん）儀（ぎ）持（ぢ）より。者（しや）茶（ちや）玉（ぎよく）小（せう）をむ。とる。唐（たう）山の銀（ぎん）目（め）は積（た）りて。三百
 此物（こゝもの）と踏（ふ）る。勿（な）論（ろん）家（け）の豊（ほう）儉（けん）小（せう）過（か）ひて。多（た）小（せう）らうといふ。又

家（け）ありて。此物（こゝもの）の赤（せき）くさきより。女子（じよし）の十
 一歳（じよさい）より。ふまて。赤（せき）儀（ぎ）のつらあり。まじ金銀（きんぎん）と擲（ちやく）て
 貧女（ひんにょ）の陣（じん）結（けつ）を助力（じゆりき）とる人（ひと）あり。是（こゝ）莫大（まくだい）の古（こ）板（ばん）
 ありといふ。陳結（ちんけつ）の日（ひ）ハ。親（おん）旅（りよ）近隣（きんりん）と集（あ）りて。大（だい）り
 宴（えん）成（じやう）役（やく）け。黄昏（くわんげん）小（せう）い。れハ。輜（し）傘（さん）と洞（どう）（鼓樂（こらく））
 て侍（しやく）を遣（ぢ）ふ。赤（せき）中（ちゆう）綵（さい）帛（ひやく）め。く粧（まげ）ひより。床（と）二脚（にけつ）と
 設（た）く。一脚（いつけつ）ハ。足（あし）あり。女（にょ）儀（ぎ）は。たせし。め一脚（いつけつ）ハ。別（べつ）侍（しやく）成（じやう）
 したせし。まじ。赤（せき）客（かく）鞞（ぎやく）樂（らく）。て酒（しゆ）と酌（しやく）む
 いら。巨燭（きよく）の火（ひ）刻画（かきかき）の如（ごと）く。あれば。侍（しやく）女（にょ）と俱（とも）に。房（ぼう）
 入（い）り。儀（ぎ）は。かを去（さ）るとも。室（むろ）小（せう）交（かう）購（かう）。とる。と

萬國新語 卷之二

もくくも似たりより。利市と陣綫と混じり
。次小記也。暹羅國陸路の 外國竹枝詞の注。東西洋考
。修をえるべし。 況。つれも陸結と利市とハ異らざる。

○産婦 同上

同書云。婦人出産の法。熱飯を湯で煮
 戸の内を納いれ。一昼夜おきて。陰を拭き。かくさるるが如し。
 産後忽ち平日の如く。其上陰門收斂ちやくして。多産の婦人
 も。常小室女の如く。とさるる。周達しゅうたつ觀くわん。元の世の人。真臘國
 紀に撰者あり。 胎後宿せ
 一。家の婦人。長中子。或産を。次日ふたひあり。産所の

嬰兒と抱き。と隣となりの婦女と抱かかり。河小深洗かみふか。とて。此
 えて。始て産婦の身痛する。或知る由あり。是て此
 國の婦人の多産あり。産後一。或もむれ。が。其あり。其
 夫と交合あひまを。す。い。連派れんぱ。不ふの。丈夫ちゆうぶ。虚弱きじやく。めて。淫慾
 と。思おもひ。す。ふ。中ちゆうら。ふ。ね。を。妻つまの方より。男おとこ。或ある。又また。所ところ。
 決絶けつてつと。乞こふ。い。方かたと。あり。其。嫁よめ。を。さ。る。り。を。さ。り。て。
 早く。産育さんいくする。り。を。さ。り。て。さ。る。り。後のち。て。を。さ。り。寝ね。あ。り。
 事ことも。亦また。あり。一。二。三十。歳の。婦人。ハ。唐山かいらん。あり。四。五十
 歳の。女子。は。め。一。と。を。

○兄弟交合也 同上

同書云。東門の裏に住むる者。穢人との姦成犯ん
 之のあり。皮肉粘り離れず。三月を歴て死しける
 とあり。吾 邦伊勢の神領よし。櫻小浜の成
 程も者。かゝる神罰を乞ふ事あり。恐るべし。

○天獄 同上

同書云。争訟の曲直成否を争ひ終つるものハ。城
 中不十二座此石の塔あり。公事人の告人被告を
 一人ハ此塔の中より召せしめ。両家成敗層々
 成隄防らしむ。かくして一二日あるハ三四日の内ハ
 此分あるものハ。才乃中不瘵瘵を乞ふ事あり。嘆歎

織も糸糸かゝり。或は城以邪正を判断し是を
 乞づけて天獄とす。

○熱油成探

同書云。人家物成失ふ事。其実否分明あり。其
 時人をして以て。其人をして。手成伸て探し
 去む。或は佛し。其人をして。腕層探し。望ぶる人ハ
 皮肉りとのみし。吾 邦の探湯亦似たり。

○如史 同上

同書に云。此國其紙甚多。其紙之厚。時ハ紫ニ赤ク。其紙の足を狭て是を絞る。其痛甚。少くも。姦吏資材を出して。正よしのこま小あはれ。バ納得して。由りてあり。是國よりの新紙

○牛紙喰ひ

同書に云。馬ハ其矮ひげくして小。牛ハ甚多く。牛死すれば。敢て其肉紙喰ひ。又敢て其皮を剥ぎ。只其の骨。小厨く棚たなせし。以て。色。いける味。人と與あふ力を出らる。おあり。

○華人其臘上紙

同書に云。其臘國中。衣裳紙着る。その上米穀。易く。婦女好やく。屋室造る。易く。器用足易く。買賣ばいばい亦やく。其が亦。水主の唐人。け。此者多し。

○楊枝 同上

隨書に曰。直臘人。毎旦まいにち澡洗あびの法を。楊枝紙やうし以て。齒は紙かみ淨きよ免ま。經文紙きやうもん讀よ誦ぶ。て後。ま。く。保たも酒しゆ。支しより。食紙くし食くひ紙かみより。楊枝やうしと。以て。糞くそと。淨きよ免ま。又。經きやうもんと。讀よ誦ぶと。あり。

○婦人智多し 暹羅

東西洋考曰暹羅ハ一赤土。其地海所割地
 と云ひ一地あり。暹羅船ハ時々停りて長崎へ來ル。此玉の
 乾る人物をとる人あり。
 婦人ハ志量男子ふりたる故ハ公の政事ナリ。自余
 のるにいつると。悉く婦に任せ。其裁決ハ性
 とあり。婦人ハ代ハ旅泊の華人を認め。是
 成也。置酒て款接。留宿ヤ。其押む
 了。丈夫も持ていさるる。あはれ。竹枝詞ハ
 女兒斷事男兒聽。ひとをぞんばあはれとるあめ
 女兒斷事男兒聽 偏愛華人夜々嬌
 と云ふ。同書の注云。華人と愛する婦人の
 丈夫。いさるるも女よりいさるる。吾書美多るがあり

中國の人も喜愛するといふがごとしあり。

○陽物ハ七寶ハ飾

五子編。およひ外國竹枝詞の注云。男子年二十歳
 の時。陽物を割て金銀珠玉ハ飾をあり。其飾
 以て封ト。其象嵌ハ入るとあり。行ハ銀器と
 して好あり。又三才圖會云。男子知り
 陽物を割て八宝嵌。以て富貴ハ銜ハ。其
 飾ハ。女とあはて妻とせしむる者あり。其
 二悦ハ。異同あり。中良業。南亞墨利加洲
 中の寺露國ハ人珍寶ハ。以て面ハ。表裡

の流るる。

○鳥葬 同上

東西洋考云。貴人死むれば。汞以て灌かんす。
高埠こうぼ母葬ぼさうは塔を建蓋かきをふも。貧家ハ鳥葬ちうさう。
竹枝祠ちくしつの注しゆ也。人死れば。尸ひこいを將て海邊うみべに
置おく。大おほ我々の如く。ふるも。毛けをとりて。良おとせ。其
修骨しゆこつハ。こしくく海中うみに棄する。されば。鳥葬ちうさうと
いふと。ちるやう。

○暹羅國の婚禮 同上

同書云。婚禮こんらいの外ほかハ。いかに。ち群ぐん信しん婚こん儀ぎ儀ぎ。送おくて女を

家いへ又また至いたり。信しん女にょの紅こう儀ぎ。婚こん儀ぎ。形かたち小こ孫そん也なり。
りて。吉祥きしやうと云いふ。竹枝祠ちくしつの注しゆ也。信しん重じゆう女にょ
の喜き紅こう儀ぎ。討うて男おとこの影かげに懸かる。されば。名なづけ
て。利り市しと云いふ。上の流ながる。いさう遠とほる。

○聖鉄 同上

此國ここのくにの人性じんせい勁悍きんぱんなり。水戦すいせん儀ぎ。吾われも。大將たいしやうハ。人の
腦のう骨こつを。ちつめく。身み儀ぎ。果はる。む。聖鉄せいてつ儀ぎ。用もち
聖鉄せいてつと。儀ぎ。了しやうる。の。儀ぎ。聖鉄せいてつ。
是こゝを。名な号ごうて。聖鉄せいてつと。いふ。刀やいば
を。別わかく。標ひょう鎗しやうを。儀ぎ。水牛皮すいぎふ儀ぎ。以もちて。牌はいと。儀ぎ。と。云いふ。

標給ハ此近國。真臘。占城（今ベトナム）。中良嘗々聞り。故向々沙を

暹羅人（今タイ）。垂（今ミャンマー）。船（今インドネシア）。華（今マレーシア）。船（今インドネシア）。物（今インドネシア）。代（今インドネシア）。を（今インドネシア）。ふ（今インドネシア）。を（今インドネシア）。

そやうよあふふらふら。芥（今インドネシア）。を（今インドネシア）。提（今インドネシア）。く（今インドネシア）。海（今インドネシア）。底（今インドネシア）。城（今インドネシア）。濠（今インドネシア）。

和（今インドネシア）。度（今インドネシア）。城（今インドネシア）。破（今インドネシア）。る（今インドネシア）。も（今インドネシア）。ん（今インドネシア）。其（今インドネシア）。性（今インドネシア）。の（今インドネシア）。穉（今インドネシア）。穉（今インドネシア）。る（今インドネシア）。も（今インドネシア）。ん（今インドネシア）。

水（今インドネシア）。係（今インドネシア）。熟（今インドネシア）。し（今インドネシア）。ら（今インドネシア）。は（今インドネシア）。是（今インドネシア）。城（今インドネシア）。り（今インドネシア）。つ（今インドネシア）。て（今インドネシア）。知（今インドネシア）。べ（今インドネシア）。し（今インドネシア）。

右占城（今ベトナム）。直（今ベトナム）。臘（今ベトナム）。暹羅（今タイ）。の（今タイ）。三（今タイ）。國（今タイ）。ハ（今タイ）。志（今タイ）。帝（今タイ）。亞（今タイ）。の（今タイ）。屬（今タイ）。玉（今タイ）。ハ（今タイ）。

一（今タイ）。古（今タイ）。中（今タイ）。華（今タイ）。ハ（今タイ）。貢（今タイ）。れ（今タイ）。地（今タイ）。あり（今タイ）。地（今タイ）。方（今タイ）。唐（今タイ）。土（今タイ）。

の西（今タイ）。小（今タイ）。島（今タイ）。あり（今タイ）。花（今タイ）。蓮（今タイ）。的（今タイ）。印（今タイ）。等（今タイ）。ハ（今タイ）。西洋（今タイ）。東（今タイ）。洋（今タイ）。ハ（今タイ）。記（今タイ）。行（今タイ）。の（今タイ）。垂（今タイ）。書（今タイ）。

右（今タイ）。城（今タイ）。書（今タイ）。目（今タイ）。ハ（今タイ）。記（今タイ）。者（今タイ）。の（今タイ）。紅（今タイ）。毛（今タイ）。人（今タイ）。の（今タイ）。説（今タイ）。話（今タイ）。あり（今タイ）。と（今タイ）。し（今タイ）。ん（今タイ）。ど（今タイ）。も（今タイ）。さ（今タイ）。ら（今タイ）。ず（今タイ）。の（今タイ）。陳（今タイ）。說（今タイ）。を（今タイ）。得（今タイ）。ず（今タイ）。ら（今タイ）。ハ（今タイ）。其（今タイ）。ま（今タイ）。じ（今タイ）。ん（今タイ）。

華人の伝。二城拾ひて。色紫の着り。

呈しる而已。

萬國新話卷之二終

